アイランドシティ・未来フォーラム提言書（案）

福岡の未来を先導するアイランドシティへ

-Future's Initiative and Challenge-

平成 23 年 12 月

アイランドシティ・未来フォーラム

目次

はじめに ･･1

1. アイランドシティの希望ある「未来」を創る基本的考え方････････････････････････････1

2. アイランドシティの全体テーマ：“洗練されたアジア” ････････････････････････････3

3. 提言の構成 ･･4

4. 市民の夢と希望を叶えるアイランドシティの未来像 ････････････････････････････5

5. 未来像の実現に向けた方針 ･･9

6. 方針に基づく戦略と方策･･･ 13

おわりに ～福岡の未来を先導するアイランドシティへ向けて～ ･･････････････････ 18

【参考】･･･ 20

〇アイランドシティ・未来フォーラム委員名簿
〇アイランドシティ・未来フォーラム設置要綱
〇アイランドシティ・未来フォーラム開催経過
〇福岡市の総合計画におけるアイランドシティの位置づけ
〇埋立地から得られる税収

はじめに

私たちは，「アイランドシティ・未来フォーラム」において，アイランドシティ整備事業の仕組みと実情を学ぶとともに，現在抱える課題とその要因に関する見識を深めてまいりました。また，アイランドシティを取り巻く厳しい状況認識の下，これからの社会を展望した福岡の未来を先導する事業としての可能性を検討し，アイランドシティの未来像とその実現に向けた方針や戦略についての意見やアイデアを出し合い，協議を進め，本提言書“福岡の未来を先導するアイランドシティへ　-Future's Initiative and Challenge-”としてまとめました。

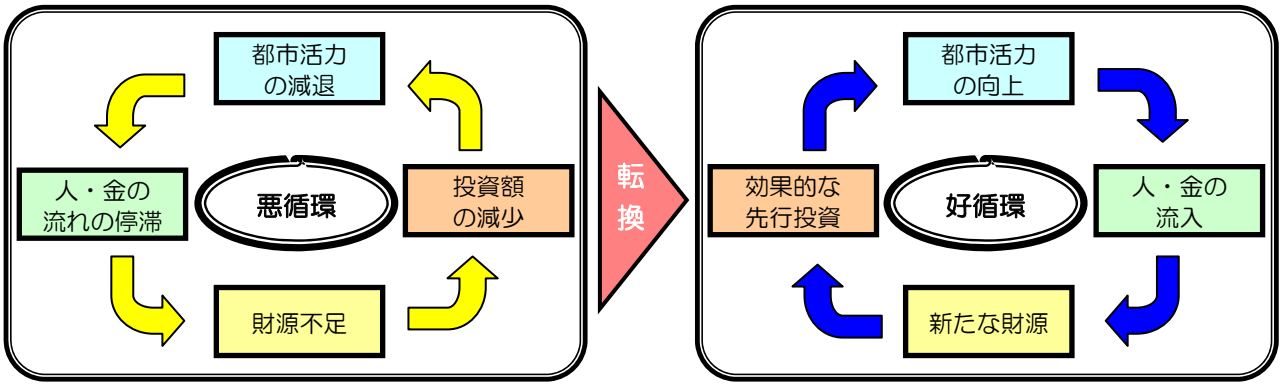
【平成 21 年 12 月に策定したアイランドシティ事業計画に掲載された完成イメージ図】

1. アイランドシティの希望ある「未来」を創る基本的考え方

(1)次世代の資産を創り、活かす「好循環」への転換！

リーマンショックや東日本大震災の影響により景気の低迷が長引く中，高齢社会への対応，老朽施設の維持・更新，都市インフラの整備・維持などの支出が膨らみ，厳しい財政状況下に置かれている福岡市が今後も持続的に発展していくためには，都市活力の減退による人や金の流れの停滞といった「悪循環」に陥ることなく，都市の魅力や拠点性を高めていくことが強く求められます。

そのためには，将来的に高い税収見込みのある事業への選択と集中による効果的な先行投資を行い，人・もの・金そして情報を集めることで新たな財源と次世代の資産を創り出し，その財源と資産を活用した更なる投資により都市の魅力を高め，更に人や投資を呼び込む「好循環」の政策へと転換していく必要があります。



(2)好循環を生み出す「エンジン」としてアイランドシティを位置づける

アイランドシティでは，市民の豊かな暮らしや地域経済を支える港湾・物流機能の整備とともに，埋立地としての立地条件を活かした都市づくりが進んでいます。

今後，福岡市の未来を先導する拠点として，更なる港湾機能の強化，新しい産業の集積や良好な住環境の整備が進むことにより，新たな雇用や税収を生み出すことが大いに期待されます。同じ福岡市の埋立地であるシーサイドももちでは，先行投資による拠点づくりが進み，現在，市税だけで年間約 56 億円，国税（約 63 億円）及び県税（約 31 億円）を合わせると年間約 150 億円の税収を生み出しています。アイランドシティにおいても，事業完了予定の 20 年後には年間約 70 億円の市税収入が見込まれるとの推計もあり，こうした財源を生み出すためにも，国や県の税収も積極的に活用して選択と集中による効果的な先行投資を行うべきです。

福岡市が今後持続的に発展していくためには，福岡市全体を「好循環」に導くための先導的な役割となり得るアイランドシティを「エンジン」として位置づけ，効果的な先行投資を行うことで，新たな拠点としてのみなとづくり・まちづくりを推進していく必要があります。

(3)アイランドシティの「強み」を活かす

アイランドシティとその周辺には，アジアのゲートウェイとして利便性の高い航路や港湾機能，博多湾や干潟が生み出す豊かな自然環境，広々とした快適な居住環境，充実した教育・学習環境，医療・福祉施設やスポーツ・レジャー施設の集積による健康的な生活環境を兼備している「強み」があり，他都市や市内の他地区と比較しても引けを取らない優位性があります。

今後，みなとづくり・まちづくりを進める際に，市行政や事業主体はこれらの立地特性や社会基盤を「強み」として最大限活かすことを常に念頭におき，新たな事業を立案・企画し，開発を誘導していくことが肝要です。

(4)「民の力」を積極的に引き出す

福岡市が厳しい財政状況にあることからすれば，民間の活力を最大限に引き出し，あるいは取り込みながら，アイランドシティのみなとづくり・まちづくりを進めることが求められます。しかし，現在の厳しい社会経済情勢の中では，民間事業者も投資に対して慎重にならざるを得ません。そこで，民間資本を呼び込むために，企業進出の足かせとなっている要因と市場の分析に基づき，企業ニーズに合ったインセンティブの付与や土地の利活用を促進するための借地制度の導入など，民間の進出リスクを公共によって軽減していく施策を喫緊に取る必要があります。

以上の基本的な考え方を踏まえ，アジアのリーダー都市を目指す福岡として，アイランドシティをアジアの都市社会のモデルとすべく，次のとおり，アイランドシティにおける全体テーマや未来像を描き，未来像実現に向けた方針と戦略・方策を提言いたします。

2. アイランドシティの全体テーマ:“洗練されたアジア”

◆混沌としたアジアから**洗練されたアジアへ，求められる都市像**

21 世紀はアジアの時代と言われていますが,真のアジアの時代の実現には，アジアの経済成長の側面だけに捉われない，本来の「アジア」の特質を洗練された形で体現する都市社会のモデルが必要です。アジアは本来，自然を人間と対峙するものと捉えるのではなく，融合し共生していくものとして捉えたライフスタイルに特色があり，新しい文化を受け入れ，調和・発展していく感覚に富んだ社会です。

しかしながら,アジアの都市には,無秩序な環境や混沌としたイメージが付きまとい,旧来のイメージを払拭して発展する都市社会のモデルが必要です。

◆先進都市を実現し得る数少ない**モデルとして何をすべきか**

アジアという将来の文化圏・経済圏とどう融合させながら日本をつくっていくかは今世紀においても我が国の最大課題ですが，アイランドシティは，アジアとの文化・経済の交流を通じて発展してきた福岡の歴史と国際性に基づきながら，博多湾の自然の中に創造された島形式としての利点を活かし，旧来のアジアのイメージを払拭した新しいアジアの都市社会を形づくることができる数少ない日本でのモデルになり得る都市です。

◆**アジア文化圏・経済圏と融合**した未来へのメッセージ都市へ

アジアと融合した日本の都市の未来像を世界にメッセージとして打ち出していける数少ない都市としてアイランドシティを認識し，そこに関わる市行政や全ての関係者が皆で目指す「みなとづくり・まちづくり」の全体テーマとして，“洗練されたアジア”を提唱します。

◆**自然と人工が融合**するアジアの自然観の下で**持続的な生活をエンジョイ**する

“洗練されたアジア”を全体テーマとすることは，次世代の福岡を先導することを意味するだけでなく，自然と人工が融合した環境や自然観を基本としながら，アジアで生産される先端的なデザインやテクノロジーを体現し，賢く生活に取り込んでいく都市社会のモデルとなることをも意味し，文化的で健康的なライフスタイルや高次な教育・産業・文化を創出し，持続的な生活をエンジョイできる都市となることが求められます。

◆**知的な洗練さと先端性を兼備**し，先導的テーマに則した都市デザインを

新しい都市では一つ一つの細やかなデザインのポリシーが街の性格を決定づけます。この点を強く認識し，市民や来訪者からどう見られているかを常に意識しなければいけません。そのため，先導的テーマを設定し，そのテーマに則しながら，知的な洗練さと先端性を兼備した都市デザインを実現していくことで，福岡とアジアの未来を切り拓いていくアイランドシティとなっていくことができます。

洗練されたアジアを目指すことは，即ち,「みなとづくり・まちづくり」を通じて福岡が世界に貢献していくことをも意味します。

3. 提言の構成

【アイランドシティの全体テーマ】

“洗練されたアジア”

【市民の夢と希望を叶えるアイランドシティの未来像】

【未来像Ⅰ】 アジアの成長・活力を取り込み，**アジア・世界とつながる拠点**

【未来像Ⅱ】 知的活動が集積し，国際的に活躍する**人材育成の場**

【未来像Ⅲ】 おしゃれで文化的なライフスタイルを創り出す**美しいまちなみ景観**

【未来像Ⅳ】 便利な公共交通システムで移動がしやすく，**安全で安心して暮らせる生活環境**

【未来像Ⅴ】 高度な医療に支えられスポーツやレクリエーションを楽しんで暮らす**「健康未来都市」**

【未来像Ⅵ】 博多湾の豊かな自然との共生や創エネ・省エネを推進する**「スマートコミュニティ」**

【未来像Ⅶ】 様々な人が集い，地域の主体的な活動が盛んで**活気に溢れた街**

【アイランドシティの希望ある「未来」を創る基本的考え方】
（1）次世代の資産を創り、活かす「好循環」への転換
（2）好循環を生み出す「エンジン」としてアイランドシティを位置づける
（3）アイランドシティの「強み」を活かす
（4）「民の力」を積極的に引き出す

【未来像の実現に向けた方針】

【方針Ⅰ】 21 世紀の展望と福岡の将来を見据えたアイランドシティの**「位置づけ」**を明確にする

【方針Ⅱ】 個性的な魅力をかたちづくる**「先導的テーマ」**に基づき街の骨格を形成する

【方針Ⅲ】 港湾・物流機能が核となり都市活力を生み出す**「複合用途」**で街区・地区を構成する

【方針Ⅳ】 住みたくなる都市の**「ブランド化」**を目指し，ICならではの環境価値を持つ街を育てる

方針に基づく戦略と方策

【戦略Ⅰ】 企業等のニーズに応じた**土地利用促進策**の投入により民間開発を誘導する

【戦略Ⅱ】 **効果的な公共投資**により都市の建設を積極的に先導する

【戦略Ⅲ】 みなとづくりとまちづくりの融合とプロジェクト相互の**相乗効果**を図る

【戦略Ⅳ】 **公・民・学連携**拠点の設置と組織的活動により生き生きした街をデザインする

4. 市民の夢と希望を叶えるアイランドシティの未来像

アイランドシティは，新たな都市活動やライフスタイルを先導するフロンティアとして開発されるべきと考えます。そのためには，今後の社会の展望と福岡の未来を見据えた上で，アイランドシティが目指すべき明確な目標像と方向性を確立し，それを市民が共有した上で，みなとづくり・まちづくりを進めなければなりません。

そのため，アイランドシティの未来を語るフォーラムでは，専門的な見地や生活者の観点から出された意見を，以下に示すような市民の夢と希望を叶えるために実現すべき未来像としてまとめました。これらの未来像は，現実の厳しさを乗り越え，福岡が真に世界に誇れる都市となるために達成されるべき目標像でもあります。

【未来像Ⅰ】アジアの成長・活力を取り込み，アジア・世界とつながる拠点

★ 日本海側のゲートウェイとしてアジア・世界につながる機能を持つみなと

★ 国際戦略総合特区・日本海側拠点港などの活用により，ナショナルプロジェクトに位置づけされている「みなと」と「まち」

★ 災害に強い港として機能分散の受け皿になっているみなと

★ 日本の再興・復興（震災）に寄与しているみなと

★ 国内外の研究機関・開発型企業・戦略産業などが集積し，人・もの・金・情報が集まって都市の活力が満ち溢れているまち

【フォーラム委員の意見と思い】

☆国際コンテナターミナルDバースの整備を急ぐべき。

☆フリーゾーンや食品・加工・部品加工もできる物流エリアがあると付加価値が高まる。

☆学術・産業・文化交流拠点や情報を活かしたデータセンター機能を持つコンベンションセンターが欲しい。

☆コンベンション型メディア・デジタルコンテンツセンター，博多・アジア情報ゲートウェイセンターというような国際情報受発信拠点を築くべき。

☆日本の再興，震災後の復興を考えた時，日本海側の拠点としての港湾機能を充実するべき。

【未来像Ⅱ】知的活動が集積し，国際的に活躍する人材育成の場

★ 各種教育機関や国際的な教育機関・文化交流施設などが立地しているまち
★ 知識創造型産業等が集積し，アジアをはじめ海外から人材が集まるまち
★ 文教地区として高い評価を得ているまち

【フォーラム委員の意見と思い】
☆高校や大学などを積極的に誘致して欲しい。
☆日中韓共同で国際教育大学を設置するとよい。
☆国際機関（医療福祉・観光交流・調停等）や国際的な教育機関を誘致して欲しい。
☆国際交流会館や昔の九州芸工大など，施設が老朽化したものを積極的に誘致するといい。
☆サイバー大学で、外国人でも日本の資格を取得できる講座を開設してはどうか。

【未来像Ⅲ】おしゃれで文化的なライフスタイルを創り出す美しいまちなみ景観

★ 格調高いまちなみと美しい並木道が創り出す景観
★ おしゃれで洗練された文化的な生活を営めるまち
★ 国際色豊かで文化的な活動が幅広く行われ，高感度な文化を発信するまち
★ 住むだけでなく，人が訪れ，滞在したくなるまち

【フォーラム委員の意見と思い】
☆図書館・児童館・野外音楽堂・イベント施設などが欲しい。
☆中央公園には，四季折々の花や植物などを植えるなど，人が集まる工夫も欲しい。
☆スーパーひとつとってもおしゃれな雰囲気やイメージブランドのものを誘致すべき。
☆アジアを先導するおしゃれで文化的な街になって欲しい。

【未来像Ⅳ】便利な公共交通システムで移動がしやすく，安全で安心して暮らせる生活環境

★ 近未来型の交通基盤が整備され，快適な交通アクセスが確保されているまち
★ 様々な利便施設が立地し，身近なエリアで生活できるまち
★ 防犯・防災に関する施設があり，地域住民の防犯・防災に対する意識も高く，安全で安心して暮らせるまち

【フォーラム委員の意見と思い】
☆バスの増便を図って欲しい。バス営業所の設置や都市高速道路の延伸を急ぐべき。
☆地下鉄・LRT・BRT・海上交通（シーバス）・動く歩道等があるといい。
☆小規模スーパー（ドラッグストア）・レストラン（喫茶店）・病院・郵便局・ホテル・フィットネスクラブ・銀行・駐車場等があるといい。
☆交番など警察施設や消防署があると心強い。
☆地域の防災拠点（防災会館等）・防犯組織（自警団）ができるとよい。
☆防犯灯・安全安心カメラを整備して欲しい。

【未来像Ⅴ】高度な医療に支えられスポーツやレクリェーションを楽しんで暮らす「健康未来都市」

★ こども病院を核として健康・医療・福祉施設が集積しているまち
★ 「ふくおか健康未来都市構想」が実現しているまち
★ 健康づくりを意識した活動やまちづくりができている「スマート・ウェルネス・シティ」
★ サイクリングやジョギングロードが広域に整備され，健康づくりやスポーツを身近に楽しめるまち

【フォーラム委員の意見と思い】
☆体育・健康をベースとした拠点的なスポーツ施設，スポーツ医学や予防医学の施設が欲しい。
☆リハビリテーションなども含めた総合的な医療施設や滞在型施設の集積を図るべき。
☆アイランドシティの構想は生涯を通じて健康で生き生きと暮らせるまちづくりが合っている。

【未来像Ⅵ】博多湾の豊かな自然との共生や創エネ・省エネを推進する「スマートコミュニティ」

★ 豊かな自然環境とともに暮らすまち
★ 自然を再生し，人々に親しまれる野鳥公園が完成し，バードウォッチングなどを楽しんでいるまち
★ 「自然エネルギー活用ビジョン」に基づく創エネ・省エネのスマートコミュニティが形成されているまち
★ スマートコミュニティづくりなど，先導的なモデルが形成されているまち
★ エコロジー産業が誘致され，エコロジービジネスが育っていくまち

【フォーラム委員の意見と思い】
☆環境やエコを学べる文化施設が欲しい。
☆自転車の活用や電気自動車・カーシェアリングの普及をすべき。
☆野鳥公園を早く整備して欲しい。
☆ととろの森のような里山，ビオトープ，農園，古民家などがあるといい。
☆周遊海域を潮干狩りやボート遊びができるゾーンにして欲しい。
☆グリーンベルトには桜並木や防風林等を植えて欲しい。
☆自然環境の再生や環境負荷が少ないまちスマートコミュニティの福岡市モデルをつくるべき。

【未来像Ⅶ】様々な人が集い，地域の主体的な活動が盛んで活気に溢れた街

★ 幅広い世代と様々なタイプの世帯が共に生活するまち
★ 文化的なにぎわいがある魅力のあるまち
★ みなとエリアとまちエリアの交流があり，全体として調和がとれているまち
★ 地域活動が盛んで，まちづくりに地域住民が参加しているまち
★ 様々な人が集い，優しさと活気に包まれたユニバーサルデザインのモデルとなるまち

【フォーラム委員の意見と思い】
☆世代間の入れ替わりが可能な住宅のリフォームなど，まちの活気が続くようなマネジメントを行うといい。
☆海外からの移住者にも提供できる住環境や教育環境があるといい。
☆ツールド・フクオカのような国際的なイベントを誘致して欲しい
☆青果市場を核とした場外市場のようなフードセンターや島の駅などあるといい。
☆まちづくりに地域住民の声が反映できると嬉しい。

5. 未来像の実現に向けた方針

【方針Ⅰ】21 世紀の展望と福岡の将来を見据えたアイランドシティの「位置づけ」を明確にする

未来像を実現し、福岡を先導する都市としてアイランドシティの整備を進めるためには、今後の社会情勢や展望を踏まえ，福岡市の将来を見据えながら，総合計画などにおいて福岡市におけるアイランドシティの位置づけを明確にする必要があります。更に、アイランドシティの位置づけを市民とも共有しながら，都市活力の好循環を生み出すための選択と集中による効果的なみなとづくり，まちづくりを進めるべきです。

◆中国をはじめ急速な成長を続けるアジアへの近接性といった博多港の特色を活かし，また，日本海側に位置する港という新たな視点も加え，アジアの活力を取り込むとともに，九州の経済を支える港としての整備を早期に進める。
◆環境（エコ）・エネルギーや健康・医療などをテーマとした 21 世紀のまちの理想像をショーケースとしてアイランドシティに先導的に展開するとともに，アジアビジネス，健康・医療，デジタルコンテンツなど，福岡市やアイランドシティの特性を活かした産業を集積する。
◆アイランドシティをアジアのリーダー都市・福岡のシンボルとして位置づけ、アジアの洗練されたライフスタイルを具現化するモデル都市としての機能を優先的に整備する。
◆アイランドシティの未来像の実現にあたっては，都市戦略上，まちづくりの好循環をもたらすために極めて重要である財源を生み出すためにも，「未来像」を福岡の発展に明確に位置づけた上で，厳しい財政事情の中ではあるが，市民の税金（一般会計）も積極的に活用して真に効果的な先行投資を行う。

【フォーラム委員の意見と思い】
① アイランドシティの都市機能を考える上で，博多湾，福岡市，九州，日本海沿岸，日本全体，そしてアジアから見たときにどういう機能が必要か，将来展望を踏まえて考えるべき。
② アイランドシティの特性や強みを踏まえたまちづくりが重要である。
③ アイランドシティを福岡の顔，モデル，ランドマークになるような場所にするべき。
④ みなとづくりエリアとまちづくりエリアの交流や調和を考えて欲しい。
⑤ 都市戦略上，財源をどう生み出していくかという観点でシナリオを描くことや，選択と集中の観点からプライオリティの位置づけをするべき。

【方針Ⅱ】個性的な魅力をかたちづくる「先導的テーマ」に基づき街の骨格を形成する

未来像を実現するため，機能や用途別のゾーニングありきで整備を進めるのではなく、まずは、以下のような課題に対して、それぞれの専門家を交え、今後の社会を見据えた先導的テーマを速やかに構想し、設定したテーマに沿った土地利用と施設の整備計画を立案した上で、みなとづくり・まちづくりを進めるべきです。

【アジアの活力を取り込む日本海ゲートウェイ港湾について】

◆アジアの成長や活力を取り込む観点から，アジアを見据えた産業の集積や東アジアに面する日本海ゲートウェイとしての博多港の機能を活かした産業を集積する。

【アイランドシティの特性を活かした産業の集積について】

◆研究・開発型の戦略産業・デジタルコンテンツなどの知的産業・アジアビジネス・エコロジー産業の立地，また，こども病院を核とした健康・医療・福祉機能の集積を「ふくおか健康未来都市構想」に基づきながら推進する。

【新たな価値の創造について】

◆物流機能と集客・交流機能の統合，物流と物に付随する情報の集積，管理，発信など，「みなと」と「まち」の連携による新たな価値・機能を創造していく。

【付加価値の高い居住環境づくりについて】

◆アイランドシティの強みである良好な景観，高い教育環境，治安（安全・安心）を更に伸ばし，付加価値の高い文化的な居住環境を形成していく。

【未来型環境都市の形成について】

◆アイランドシティが島形式となった経緯を踏まえ，博多湾の豊かな自然との共生を具体化するとともに，環境・エコに配慮したスマートコミュニティ（未来型環境都市）の形成を推進。積極的な社会実験の実施など産業としても位置づける。

【活力あるコミュニティの形成について】

◆活発なコミュニティ活動やユニバーサルデザインのまちづくりにより，幅広い世代の多様な世帯の住民が住み続けられる活力あるコミュニティを形成していく。

【フォーラム委員の意見と思い】

① アジアを見据えた産業集積や博多港の機能を活かした産業集積を図るべき。
② 研究機関，開発型の戦略産業など，知的産業の集積を図るべき。
③ こども病院を核とした健康・医療・福祉機能の集積を図るべき。
④ こども病院にはアジアをはじめ，外国からの患者や医療関係者等を受入れるべき。
⑤ まちづくりエリア全体を産業圏として捉えた実験的なプロジェクト，あるいはスマートシティづくりのためのショーケースや社会実験などを行うことが重要である。
⑥ 島形式となっていることのメリット（セキュリティが容易）・デメリット（交通渋滞等）がある。
⑦ アイランドシティのテーマ（キーワード）は，環境（エコ）・健康（医療・スポーツ）・文教・交流などで，文化的で洗練されたアジアのイメージである。

【方針Ⅲ】港湾・物流機能が核となり都市活力を生み出す「複合用途」で街区・地区を構成する

東アジアに面する日本海ゲートウェイとしての博多港の特色や強みを整理し，アジアや日本の中での役割，特に震災の影響が少ない日本海側における港湾の役割を踏まえた戦略的な港湾機能の強化を図るべきです。また，港湾機能だけに限定するのではなく，「みなと」と「まち」の調和や付加価値を高めるためにも，複合的な機能も積極的に取り入れるとともに，港湾機能の大切さを発信する取り組みも行うべきです。

◆今後の物流の増加に対して，既存の港湾設備では対応ができなくなる状況が生じる可能性があることを踏まえ，博多港の各ふ頭間の機能整理を図りつつ，国際コンテナターミナルの整備を急ぎ，効率的で競争力のある港湾整備を急ぐ。
◆みなとづくりとまちづくりの調和，エリアの付加価値を高める観点から，港湾機能単体としてのエリアでなく，青果市場を活用した集客や交流，先進的なコンテナターミナルを活用した情報発信などができる取り組みを進める。
◆交通事情やまちなみ景観など，みなとづくりエリアとまちづくりエリアの特性に配慮した安全対策や景観上の工夫を行う。

【フォーラム委員の意見と思い】
① 博多港の特色や強みを整理し，アジア・日本・日本海側における戦略的港湾機能を強化するべき。
② 国際ＲＯＲＯ船の有効活用や国際コンテナターミナルの整備を急ぎ，博多港の各ふ頭の機能整理を行い，効率が良く競争力のある港湾機能整備を図るべき。
③ 青果市場等を核として，魚市場や花市場などを集め，食をテーマにしたイベントやフードセンターなどのプロジェクトによる集客の仕組みをつくるべき。
④ 先進的なコンテナターミナルなど港の機能を教育の場として活用することにより，事業の理解促進を図るとともに，港湾機能の重要性の発信が大切である。

【方針Ⅳ】住みたくなる都市のブランド化を目指し、ICならではの環境価値を持つ街を育てる

魅力あるまちづくりを進めるためには，居住環境にアイランドシティならではの付加価値を与えることが必要です。さらに，“人工島”と言われるネガティブなイメージを払拭するためにも，魅力ある街の姿を洗練されたデザインで実現し、その環境の優れた点について積極的に情報発信を進めることにより，街全体のイメージ向上によるブランド化を図るべきです。

◆住環境を向上させる，安全・安心や利便性の向上が図られる施設を立地する。
◆アイランドシティの特性である教育環境の素晴らしさを活かし，文教地区としてのイメージを定着させ，また，さらに高めるために，高等教育機関や国際的な教育機関等の立地を図る。
◆人に優しく，若者から高齢者まで幅広い世代の多様な人が住み続けられるユニバーサルデザインのモデルとなるまち，活力あるコミュニティを形成する。
◆文化的に人が集う未来型エコタウン，博多湾の豊かな自然と共生する文化エコタウンといったテーマの魅力あるまちづくりを進める。
◆行政だけではなく，多様な主体によりイベントを実施し，様々な種類のメディアにより活発に情報発信をしていく。
◆まちのコンセプトやテーマに基づくまちづくりの一環としてのまちの名称の定着，イメージアップや情報発信のための「通り」「街角」「公園」などの通称づくりを行う。

【フォーラム委員の意見と思い】
① まちづくりエリアの居住環境としては，景観や治安が良く，子育てしやすい環境であり，特に照葉小中学校に代表されるように教育環境が素晴らしい。
② 文教地区を前面に出し，高校や大学，国際的な教育機関等の誘致を積極的に図るべき。
③ 魅力あるまちのイメージとしては，文化的に人が集う未来型エコタウンや自然と共生できる文化エコタウンという感じ。
④ 単身者や高齢者など、多様な人が集うことで、活気がありつづけるまちに成熟させるべき。
⑤ 住民の治安・防犯に対する意識が高く，交番等の警察施設の設置や警察との連携を求める声が多い。
⑥ 住環境では付加価値を高め，安全・安心や利便性が向上する施設の集積を図るべき。
⑦ アイランドシティのネガティブイメージを払拭し，住環境の素晴らしさなどを積極的に発信することによるブランドづくりが求められる。
⑧ イメージやブランド向上のためのまちの名称の定着は，まちづくりのコンセプトやテーマに基づく魅力あるまちづくりとともにあるべき。
⑨ まちづくりエリアでは価格を下げる発想だけではなく，付加価値を高める工夫をするべき。

6. 方針に基づく戦略と方策

【戦略Ⅰ】企業等のニーズに応じた土地利用促進策の投入により民間開発を誘導する

アイランドシティのみなとづくり・まちづくりを進めるためには，新たな産業や物流機能の集積に加え，企業活動や住民生活の環境を向上させる利便施設の立地など民間開発を積極的に誘導する必要があります。そこで，民間事業者の進出意欲を高めるため，インセンティブや付加価値づくりに対するメリットの創設，土地の利活用を促進するための新制度の導入に加え，長期にわたる計画を民間の力を利用しながら継続的に進めて行くための開発方式を早急に打ち出す必要があります。

◆現在の厳しい社会経済情勢の下，民間事業者は立地に伴うリスクや事業採算性を厳しく判断していることから，インセンティブの付与による初期投資の負担軽減など民間事業者のニーズに沿った様々な立地促進策を実行していく。
◆立地促進策の実施に伴う費用については，福岡市全体，あるいは，今後のまちづくりの進展に伴い生じる税収など，広域的・長期的な視点で賄う考え方を持つ。
◆立地促進策については，規制緩和や財政支援などの措置が受けられる総合特区制度など国の制度も積極的に活用していく。
◆街区単位ではなく、大規模なエリアを対象に一括して公募を行うなど，従来とは違う総合的な開発方式を導入する。
◆産業界が有するノウハウや民間企業とのネットワークを活かし，産業界と協働して，事業化，企業誘致関連情報の収集・共有，プロモーション，誘致活動などを実施していく。

【具体的な方策〔★は戦略として特に効果があり重要〕】
（短期的）　★アイランドシティの強みを活かすための立地交付金・補助金の拡充
★事業用定期借地の導入
★５工区全体を対象にした一括公募等の総合的開発方式の導入
☆土地購入にあたっての分割払いの導入
☆固定資産税などの税制・金融面での優遇
☆特区制度の活用を視野に入れた規制緩和
（中長期的）☆フリーゾーン等の付加価値を備えた物流エリアなどの設定

【フォーラム委員の意見と思い】
① 物流やマーケティング機能を持ったエンジニアリングセンターを立地し，フリーゾーンとして規制緩和や税制優遇などを兼ね備えたエンジニアリングパークのような整備を行うべき。
② 立地促進のためのメリットやビジョン，エリアの優位性を示し，先行的な公共投資を行うべき。
③ 土地分譲だけでなく，事業用定期借地などにより土地の流動化を図るべき。
④ 立地交付金等の補助金の拡充や分割払いのようなインセンティブの充実を図るべき。
⑤ 規制緩和により海外からも含めてベンチャーや起業しやすい仕組みづくりで企業誘致を行うべき。
⑥ 立地は価格の問題だけではなく，立地のメリットを高めるためのインセンティブや付加価値づくりが求められる。
⑦ 投資の回収は，都市全体で回収するといった発想，分譲価格だけでなく，税収で回収するといった発想でよい。
⑧ みなとづくりエリアは土地価格を下げる工夫が求められる。
⑨ まちづくりエリアにおける公募方法は，これまでの個別ブロックごとの分譲公募ではなく，より大きなエリアを対象に総合的な観点から一括して公募する方法がいいのではないか。

【戦略Ⅱ】効果的な公共投資により都市の建設を積極的に先導する

アイランドシティの未来像実現に向けて，港湾機能の強化や都市機能の整備を促進するためには，コンテナターミナルの整備や核となる公共施設や交通システムの整備などの公共投資を先行的に行い，開発を先導していく必要があります。特に，まちづくりの核となる公共施設と公共交通ネットワークの整備は急務です。

◆港湾機能強化のためのコンテナターミナルの整備について積極的に公共投資を行う。
◆アイランドシティの位置づけに基づき，その強みを活かした核となる公共施設を整備する。
◆人，もの，金，情報を集め，都市の活力を得る観点から，学術・産業・文化・スポーツ交流の拠点となる新しいタイプの核となる施設を整備する。
◆地域住民のアクセス確保の観点から，道路整備とバス路線の充実を最優先させ，交通の利便性を向上させる。
◆大規模な開発エリアでは，既存の鉄道やバス路線とネットワークされた交通網整備が必要であり，文化や環境をテーマにまちづくりを進める観点からも，従来型のバスだけでなく，新たな公共交通を導入する。
◆埋立地から得られる税収も活用し，みなとづくりやまちづくり事業への国や県の参画を積極的に働きかける。

【具体的な方策〔★は戦略として特に効果があり重要〕】

（短期的）
- **★環境・エネルギー，健康・スポーツ・文化関連の核となる公共施設（スポーツ施設等）の整備**
- **★メディア・デジタルコンテンツ等の国際情報受発信，制作，流通機能をもった新しい核となる施設の設置**
- **★幹線道路及び自動車専用道路（都市高速道路）の延伸の早期整備**
- **★新たな公共交通（BRT・LRT・電気バス等）の導入**
- **☆バス営業所の誘致等によるバスの増便**
- **☆野鳥公園の早期着手**
- **☆インターナショナル中・高校等の国際教育機関の設置**
- **☆国際コンテナターミナルＤバースの早期整備**

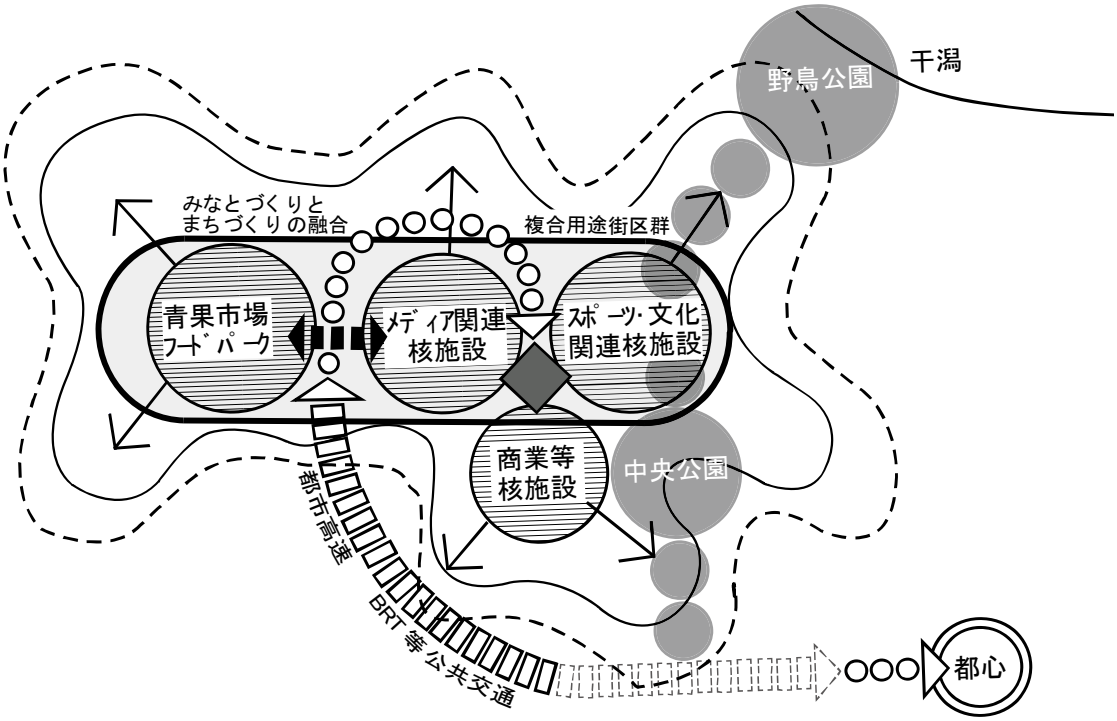
（中長期的）
- **☆学術・産業・文化交流の拠点やデータセンター機能を持つコンベンションセンターの設置**

●公共施設のイメージ

●ﾒﾃﾞｨｱ関連核施設（ｲﾒｰｼﾞ）

●ｽﾎﾟｰﾂ･文化関連核施設（ｲﾒｰｼﾞ）

●野鳥公園（イメージ）



【都心と直結した BRT 等の公共交通導入と核施設整備によるまちづくり展開のイメージ】

●フードパーク（イメージ）

●ＢＲＴ（イメージ）

●電気バス（イメージ）

【フォーラム委員の意見と思い】

① 住民が必要としている施設は，交通機関，商業施設（小規模スーパー等），医療機関（病院等）など。
② 現状としてはバスのみで便数も十分ではないため，バスの増便や鉄軌道の導入を図るべき。
③ 現実的な交通アクセスの向上としては，当面，道路整備とバス路線の充実であり，そのために自動車専用道路（都市高速道路）の延伸を急ぐべき。
④ 都市交通と直結した循環型の交通網の整備が求められる。
⑤ まちづくりの具体的な計画を示し文化施設や交通基盤整備などの公共投資を先行的に行うべき。
⑥ 従来型の見本市会場としてのコンベンションセンターではなく，学術・産業交流の拠点となるような，あるいは情報管理や文化的機能を持つ大規模コンベンションセンターが欲しい。
⑦ メディアやコンテンツなど，さまざまな情報を活用・発信する新しい形の核施設が求められる。
⑧ 総合特区活用などアイランドシティをナショナルプロジェクトに仕立て上げる戦略がいる。
⑨ アイランドシティ整備事業については，埋立地から得られる税収も活用し，公共投資や特区の活用など国や県と連携するべき。

【戦略Ⅲ】みなとづくりとまちづくりの融合とプロジェクト相互の相乗効果を図る

みなとづくりエリアにおいては，港湾・物流機能を中心とした複合地区としての付加価値を高め、まちづくりエリアとの融合を図る観点から，単なる港湾機能の整備にとどまらず，複合的な機能を積極的に取り入れ，それぞれのプロジェクトが相互に連携し，相乗効果が高まる取り組みを行うべきです。

◆青果市場等を核とした食をテーマにしたイベントやグルメタウン等の整備を連携して実施することにより，集客や交流の場を整備する。
◆みなとづくりエリアを子どもたちや市民の学習の場として活用し，福岡における港の歴史や港湾機能の重要性への理解を促進するとともに、アイランドシティ整備事業の必要性を積極的に発信する。
◆みなとづくりエリアにおいて，今後造成が予定されている港湾関連用地については，面積も広大であることから，複合的な機能の形成を図り、その実現方策を実施する。

【具体的な方策〔★は戦略として特に効果があり重要〕】
（短期的）　☆学校の授業等として港の見学会などを行う。
☆港の見学エリアや情報発信拠点などを設ける。
（中長期的）★青果市場を中心として，場外市場・マルシェ・グルメタウンを併設したフードパークを設置する。
☆みなとづくりエリアを複合地区・街区とすることを可能とする用途・規制の見直しを行う。

●みなとづくり見学会

●電動ﾄﾗﾝｽﾌｧｸﾚｰﾝ

●マルシェ（イメージ）

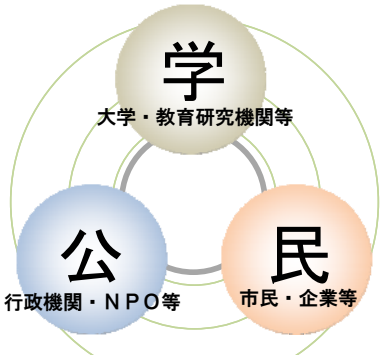
【フォーラム委員の意見と思い】
①青果市場等を核として，魚市場や花市場などを集め，食をテーマにしたイベントやフードセンターなどのプロジェクトによる集客の仕組みをつくるべき。
② 先進的なコンテナターミナルなど港の機能を教育の場として活用することにより，事業の理解促進を図るとともに，港湾機能の重要性の発信が大切である。
③ 港エリアのこれから造成する部分は狭義の港湾機能以外を誘致せざるを得ないのではないか，そこを港の機能とどのように組み合わせるのかは課題である。

【戦略Ⅳ】公・民・学連携拠点の設置と組織的活動により生き生きした街をデザインする

未来像として掲げた質の高い都市空間や魅力的なまちを形成していくためには，住民や専門家を含めた公・民・学の多様な主体が連携しての取り組みや，コミュニティの形成と生き生きとした街のデザインとマネジメントが求められ、そのための推進母体となる拠点や組織を立ち上げる必要があります。

◆イベントや地域活動などのコミュニティ育成のための活動、専門家による将来計画や道路，公園等の公共空間のデザインなどをコーディネートするまちづくりエリア全体のマネジメントのための組織を立ち上げ、運営する。
◆まちのイメージやブランドを高めていくために，地元が中心となった情報発信やまちづくり活動，また，環境エネルギー・健康医療・文化活動なども学べる場としての拠点施設の整備を行う。
◆新しい街として地域が自ら価値創造していくため、文化的な活動や洗練された街のデザイン演出に関わる地域の自主的な活動をソフト・ハード両面で支援する文化的なエリアマネジメントを推進する。

【具体的な方策〔★は戦略として特に効果があり重要〕】
（短期的）★情報発信と地域主体のまちづくり拠点（アーバンデザインセンター）の設置と組織化
☆地域住民が参画したまちづくりとしての道路，公園等のネーミング
☆イベント型のソフトコンテンツや地域活動による地域の活性化
☆地元大学と連携した社会実験の実施
☆地域団体の設立・活動支援



●公・民・学連携の概念

●柏の葉アーバンデザインセンター

【フォーラム委員の意見と思い】
① イベントや地域活動，まちの多様性などをコーディネート・マネジメントしていくような組織や施設整備を行うべき。（例として柏の葉アーバンデザインセンター）
② アイランドシティに地元が中心となった情報発信や学びの場としてのまちづくりの拠点施設の整備を行うべき。
③ 地域の自主的な活動によるまちづくりの推進が求められる。

おわりに　～福岡の未来を先導するアイランドシティへ向けて～

アイランドシティ・未来フォーラムでは，アイランドシティ事業の仕組み、現状、課題をきちんと把握した上で，一般公開の場において課題解決の方策や未来の可能性についての意見交換と協議を重ねてきました。

アイランドシティは，福岡市の東の拠点として整備が進められてきたところであり，「みなとづくり」においては，博多港の役割が増大するにつれて港としての整備が急がれることや，造成した土地については，企業の土地に対する考え方の変化に柔軟に対応していくとともに，「まちづくり」においては，良好な住宅地としての質を更に高めるための施策や，こども病院等の立地に合わせた企業集積が望まれているところです。

少子高齢化による社会福祉関係予算の増加や都市の成長期に整備した公共施設の改修などに伴う財政支出の増大，また，リーマンショック以降の厳しい経済情勢も相まって，国や他の自治体と同様に福岡市の財政状況が厳しいことも再認識したところですが，民間の活力を最大限に引き出し，活用していくためには，これらの課題に対し，的確かつ強力な施策を展開していくことが求められています。

このたびのフォーラム設置の主旨は，まちづくりを進める上での課題を解決するための提案をすることです。

立地促進のためにインセンティブを充実して土地の分譲を進めることや，借地制度の導入などにより土地の利活用を進めるなど，様々な手法を積極的に取り入れ，民間の投資を積極的に導入することが求められています。

その一方で，まちの付加価値を高めて投資意欲を喚起するためには，民間開発を誘導する効果的な公共投資も積極的に行う必要があります。

アイランドシティ整備事業は，開発後には，高い税収が見込める将来の財源と資産を形成する重要な事業でもあります。アイランドシティの将来の可能性を引き出すためには，同事業を将来の財源と資産を形成する事業としてだけでなく，福岡の未来を先導する事業として捉え，時代の潮流と国際社会の動向，東日本大震災後の日本の国土構造の変化を見据えたビジョンを描き，福岡市として，必要とされる公共施設の導入や民間の立地促進策をスピード感をもって行っていくべきと考えます。

その際には，和白干潟を残し，周辺の自然環境を保全するため，陸続きの埋め立て計画を島方式の計画に変更した経緯も踏まえ，自然環境の保全と再生にも最大限の配慮をしながら事業を進めるとともに，投資効果を定期的に検証し，課題がある場合は適宜改善していく仕組みの導入も併せて必要であることは言うまでもありません。

アイランドシティにおいては，既に開発が進み，約 4,500 人の居住者が生活を始めています。この新しいコミュニティを育成するとともに，「人工島」の負のイメージを払拭し，生活利便の向上を図ることは，住民の切実なる願いであり，アイランドシティの居住環境を住みたくなる都市のブランドとする上で必須の課題であると考えます。

アイランドシティが，未来に渡って市民の豊かな暮らしを支え，福岡市の貴重な財源と資産であり続けるためにも，今こそ好循環へと転換させる方針と戦略の下，効果的で積極的な施策を実行されるべきです。

今後は，市長のリーダーシップの下，国・県とも連携しながら，市関連部局の横断的，総合的な取り組みにより，本提言で示した具体的方策の実施を通じ，アイランドシティ整備事業に積極的に取り組んでいただくことを切に望みます。

以上を福岡の未来を先導するアイランドシティへ向けての提言として，ここにご提案申し上げます。

平成 23 年 12 月
アイランドシティ・未来フォーラム委員一同

【参考】

○アイランドシティ・未来フォーラム委員名簿

〔敬称略，委員は五十音順，所属等は就任時点(H23.7.30)〕

区分	氏　　名	所　属　等
委員長	出口（でぐち）　敦（あつし）	東京大学　大学院新領域創成科学研究科　教授 （九州大学　大学院人間環境学府　客員教授）
委　員	青木（あおき）　麗子（れいこ）	（株）ＤＬＣ日中ビジネスコンサルティング　代表取締役社長
	安藤（あんどう）　信善（のぶよし）	福岡県　東警察署長
	伊東（いとう）　順二（じゅんじ）	富山大学　芸術文化学部　教授
	海老井（えびい）　悦子（えつこ）	福岡県　副知事
	大庭（おおば）　宗一（そういち）	エッセイスト
	小俣（おまた）　郁雄（いくお）	（株）ＪＴＢコミュニケーションズ九州　代表取締役社長
	申斐（かい）　敏洋（としひろ）	（社）福岡貿易会　専務理事
	滝本（たきもと）　徹（とおる）	経済産業省　九州経済産業局長
	土屋（つちや）　直知（なおのり）	福岡商工会議所　副会頭
	ト　　コ	コラムニスト
	長沼（ながぬま）　慶也（よしや）	（社）福岡青年会議所　理事長
	貫（ぬき）　正義（まさよし）	福岡経済同友会　代表幹事
	平山（ひらやま）　和典（かずのり）	（財）日本不動産研究所　九州支社長
	増山（ましやま）　祐次（ゆうじ）	（株）日本政策投資銀行　九州支店長
	村田（むらた）　大（だい）	照葉まちづくり協会　会長
	森（もり）　正憲（まさのり）	アイランドタワー自治会　会長

○アイランドシティ・未来フォーラム設置要綱

（設置目的）
第１条　アイランドシティにおける事業の意義や効果，事業推進方策について，行政のみならず，多くの方々と共に考える機運を醸成し，アイランドシティ整備事業に対する市民や企業等の理解，共感を得るとともに，アイランドシティにおける市民の豊かな暮らしを支えるみなとづくりやまちづくりを着実に推進するため，これまでの枠組みに捉われることなく，まちづくりを先導するプロジェクトなどの新たな取り組みについて，様々な立場の方から広く意見をいただくことを目的として「アイランドシティ・未来フォーラム（以下，「未来フォーラム」という。）」を設置する。

（構成員及び組織）
第２条　未来フォーラムは，委員長及び委員（以下，「委員等」という）をもって組織する。
２　委員等は，市民，学識経験者及び産業界等のうちから市長が委嘱する。
３　委員等の任期は，委嘱の日から平成24年3月31日までとする。

（運営）
第３条　未来フォーラムは，委員長が必要と認めたときに招集し，委員長が会議の進行にあたる。
２　委員長がやむを得ず会議に出席できない場合は，委員長があらかじめ指名した委員が委員長代理として会議の進行にあたる。
３　委員長が必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求め，説明またはその意見を聴くことができる。

（会議の公開）
第４条　会議は原則公開とする。ただし，会議における審議の内容が，福岡市情報公開条例第７条各号に掲げる情報（非公開情報）に関するものであるとき，又は，会議を公開することにより，当該会議の適正な運営に著しい支障が生じると認められるときは，この限りでない。
２　会議の傍聴に係る手続きその他傍聴に関して必要な事項は，別に定める。

（事務局）
第５条　未来フォーラムの事務局は，福岡市総務企画局企画調整部に置く。

（雑則）
第６条　この要綱に定めるもののほか，未来フォーラムの運営に必要な事項は，事務局が委員長と協議の上，定める。

附則
この要綱は平成 23 年 7 月 30 日から施行する。

○アイランドシティ・未来フォーラム開催経過

日　　程	議　事　内　容
第１回フォーラム （7 月 30 日）	◇アイランドシティ整備事業の現状等について ◎福岡市のみなとづくり・まちづくり ◎アイランドシティ整備事業の概要と現状 ◎アイランドシティの立地特性 ◇委員による質疑応答と意見交換
第２回フォーラム （８月 20 日）	◇アイランドシティの都市機能について ◎アイランドシティの位置づけ ◎新たに産業を創出するまち ◎環境共生のまち ◎多様な都市機能があるまち ◎過去・他都市の事例 ◇委員による質疑応答と意見交換
第３回フォーラム （９月 17 日）	◇博多港の将来像 ◇アイランドシティの土地価格・立地促進策等について ◎福岡市及びアイランドシティの土地価格の動向等 ◎今後の立地・開発に向けた課題 ◎福岡市・他都市の立地促進策 ◎立地に関する法的規制・アイランドシティの現状分析 ◇地域住民・立地民間事業者の意見について ◇委員による質疑応答と意見交換
第４回フォーラム （10 月８日）	◇補足説明「福岡市の全体ビジョンとアイランドシティ」 ◎福岡市のまちづくり ◎福岡市の産業政策 ◎福岡市の交通体系の考え方 ◎福岡市の財政状況とアイランドシティ整備事業 ◎アイランドシティのまちづくりの視点 ◇委員によるフリーディスカッション ◎課題点、未来像、方針・戦略等に関する協議
第５回フォーラム （11 月５日）	◇委員によるフリーディスカッション ◎提言書のたたき台にもとづく意見の整理・集約
第６回フォーラム （12 月 3 日）	◇委員によるフリーディスカッション ◎提言書の内容に関する協議とまとめ

○ 福岡市の総合計画におけるアイランドシティの位置づけ

■福岡市基本構想(昭和 62 年策定)

＜４つの都市像＞

①自律し優しさを共有する市民の都市　③海と歴史を抱いた文化の都市
②自然を生かす快適な生活の都市　④活力あるアジアの拠点都市

■福岡市新・基本計画(平成 15 年策定)

＜新しい福岡づくりの基本方向＞

☆自由かっ達で人輝く自治都市・福岡をめざして　～九州，そしてアジアの中で～

＜都市経営の基本的考え方＞

①果敢に挑戦する自治と自律の都市　③豊かな自然環境と歴史風土を大切にする都市
②安全で快適な市民生活充実の都市　④多彩な人が集い活躍する活気創造の都市
⑤協力と競争によりアジアの中で共生する都市

＜政策目標⑰：先進的モデル都市・アイランドシティを創造する＞

※政策目標を達成するための施策の基本的方向

①アイランドシティのまちづくりの基本的考え方
・先進的モデル都市，国際物流拠点の形成
・都市基盤整備と民間活力の導入　など

②高質な居住環境の形成
③新しい産業集積拠点の形成
④先進的な物流空間の創出
⑤環境共生の先進的な取り組みの実践

■政策推進プラン(第 2 次実施計画：平成 20 年策定)

＜４年間のまちづくりの目標像(３つの柱)＞

①笑顔があふれ，明るく元気に子どもが育つ街・福岡
②市民も企業も皆が環境を大切にする健やかな街・福岡
◇特に力を入れていく分野・施策
(7)コンパクトな環境共生都市づくり
⇒アイランドシティ住宅まちづくり
③シティプロモーションで創る九州・アジア新時代の交流拠点都市・福岡
◇特に力を入れていく分野・施策
(10)九州・アジア新時代の交流拠点都市づくり
⇒アイランドシティ港湾機能強化・新しい産業集積拠点の形成

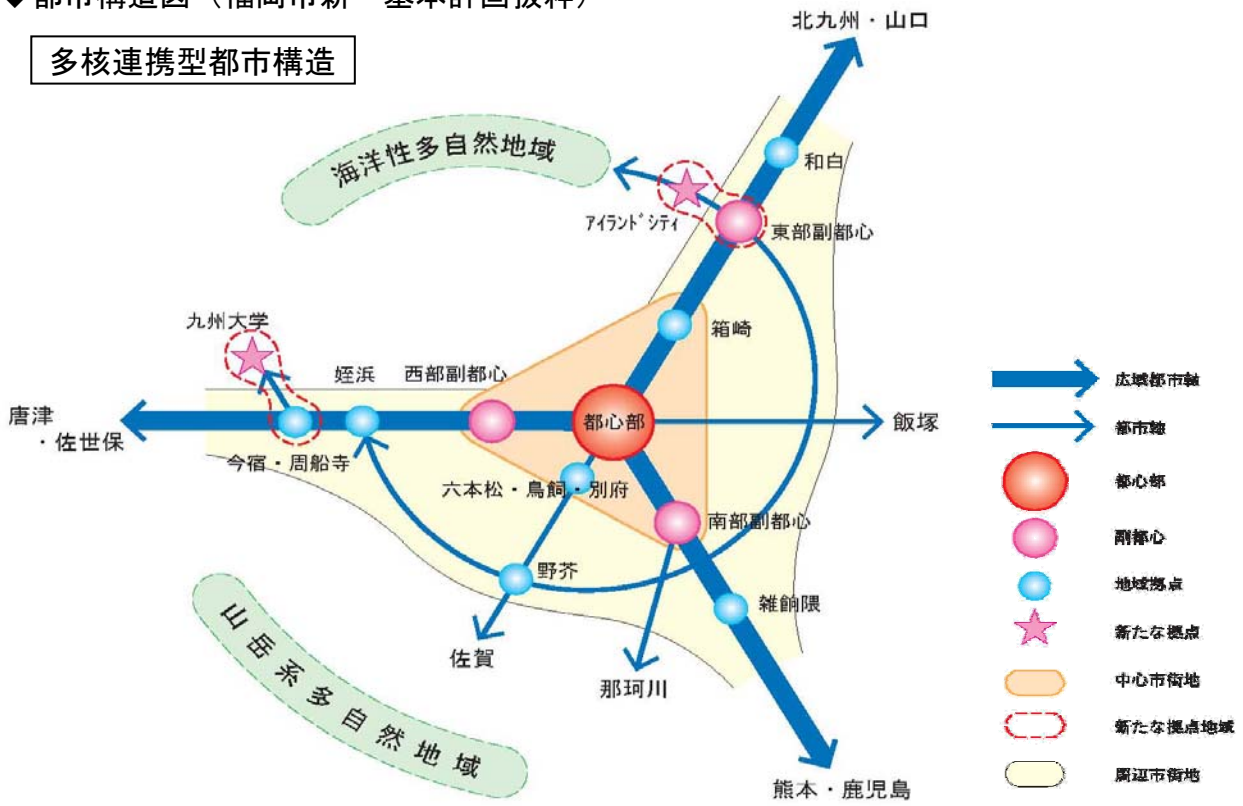
＜政策目標⑰：先進的モデル都市・アイランドシティを創造する＞

※政策目標を達成するため，優先的に資源配分を行い，４年間に重点的に取り組む事業

☆住宅まちづくり	**☆企業立地の促進**	**☆自動車専用道路導入等の検討**
☆教育環境整備	**☆外国企業の誘致**	**☆関連道路の整備**
☆先導的産業集積の推進	**☆港湾機能強化**	**☆海浜プロムナードの整備**

◆都市構造図（福岡市新・基本計画抜粋）

多核連携型都市構造

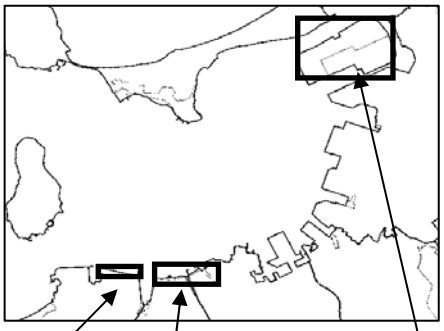


主要な拠点		
都心部		・ 本市の核として、高度な都市機能や広域交通機能が集積する地区で、都市活力の中心として、知的交流機能、アジアの交流拠点都市にふさわしい機能、文化・エンターテインメント機能など高度な機能の集積・創出をめざす。 ・ 蓄積された商業・業務・文化機能などの集積を活かしながら、多様なタイプの住宅の充実を図り、子育て層のファミリー世帯をはじめ、多様な世帯の居住を促進するとともに、地域コミュニティの活性化をめざす。 ・ 快適な歩行空間の確保や美しく魅力的な都市景観の形成とともに、歴史や伝統、アジアをはじめ多様な文化を感じるまちづくりなど魅力の向上をめざす。 ・ ウォーターフロント地区は、海の玄関口としての港湾機能や、コンベンション機能、業務機能の充実を図るとともに、海に開かれた快適な空間づくりを進める。
副都心		・ 交通結節機能が高く、都心部を補完する商業・業務などの都市機能や、行政区や市域を超えた範囲を対象とする公的サービス機能の充実を図り、広域的な拠点としての形成をめざす。
地域拠点		・ 交通結節機能や日常生活に必要な商業機能に加え、区レベルの行政サービス・コミュニティ機能、またはそれを補完する地域交流センターの整備など、区やそれに準ずる区域の拠点としての機能充実をめざす。
新たな拠点地域	東部地域（アイランドシティ～東部副都心	・ アイランドシティでは、最新鋭の港湾施設を備えた国際物流拠点の形成をめざすとともに、環境と共生し、質の高い居住環境や新しい産業集積拠点を形成する先進的モデル都市づくりを進め、東部副都心との連携を図りながら、本市東部における新たな拠点地域の形成をめざす。
	西部地域（九州大学～今宿・周船寺）	・ 九州大学を核とした学術・研究機能が集積し、学生や教職員、民間企業を含めた研究者などが、豊かな自然環境のなかで新たな知を創造し、発信する学術研究都市づくりを進め、今宿・周船寺地区との連携を図りながら、本市西部地域における新たな拠点地域の形成をめざす。

○ 埋立地から得られる税収（第4回アイランドシティ・未来フォーラム資料抜粋）

○シーサイドももち（約138ha）では、**市税だけで56億円/年**、国税・県税を合せると**150億円/年**
○アイランドシティ（約401ha）では、**現在、市税で10億円/年**、国税・県税を合せると**23億円/年**

シーサイドももち



アイランドシティ

埋立地から得られる税収（試算）

面　　積		【マリナタウン】 約74ha	【シーサイドももち】 約138ha	【アイランドシティ】 約401ha（計画）	
分譲期間		S61年～H19年	S61年～H21年	H13年～H39年（計画）	
居住人口		約9,900人	約8,000人	約18,000人（計画）	
就業人口		約500人	約14,000人	約18,000人（計画）	
税　　収		約40億円/年	約150億円/年	約23億円/年	約213億円/年
	国税	約21億円/年	約63億円/年	約10億円/年	約94億円/年
	県税	約　6億円/年	約31億円/年	約　3億円/年	約40億円/年
	市税	約13億円/年	約56億円/年	約10億円/年	約79億円/年

※市税は平成 23 年度（一部 22 年度）の調定額の実績，国税・県税は平成 21 年度の推計額